

愛知県における中学生の県内空間認識の形成

初等教育教員養成課程 社会選修 早瀬 友浩

本研究では愛知県内における中学生の県内空間認識の形成に及ぼす諸条件を考察することを目的としている。

尾張地方北西部に位置する尾張旭市，三河地方南部に位置する碧南市の生徒を調査対象とし，県内市町村に関する名称認識，認識内容，位置認識についてアンケート調査を行い，その結果を分析，考察する方法を用いた。

その結果，次のようなことが明らかになった。名称認識は基本的に居住している市の近隣市町村で高くなり，距離が離れるにつれて低くなっていく。学校行事や社会科の授業で取り扱われた市町村は例外的に高い数値を示す。

認識内容は居住している市の近隣市町村で買い物や遊び行動など，生徒が直接体験していることを示す内容が多かった。他方，遠方市町村では社会科の授業など間接的に体験した事示す認識内容が多くなる。

位置認識は名称認識と比べて全体的に水準が低くなっており，自治体の面積の大きさや県内において特徴的な位置にあることが結果に大きな影響を与えていた。

愛知県内に居住する生徒の空間認識は名古屋市に強い影響を受けている。それは尾張旭市，碧南市の生徒ともに愛西市，あま市など名古屋市より西の地方をほとんど認識していないことからわかる。

また，県内空間認識の形成過程において，社会科の授業が大きな役割を担っていることが明らかとなった。しかし，これまでの授業では市町村の名称認識のみの形成にとどまり，位置認識までは定着させることができていない。そのため，県内空間の学習においては名称認識のみでなく位置認識も高めることができるような教材の開発や指導法の工夫が求められる。

今回の調査結果は今まであまり行われて来なかった，中学校段階での県内空間認識の形成の分野での基礎的な資料となると考えられる。